

ワシントンは“ニセ旗”で、新しい“悪の枢軸国”を核戦争に巻き込むか？

【訳者注】これは、今この時点の世界情勢の、綿密で正確な分析ではないだろうか？ 相手は同じ人間なのだから、そこまで非常識なことは起こらないだろうという考え方が、全く間違っているという警告を、私は何度も聞いて（読んで）いる。相手は同じ人間ではない。

(<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/160213.pdf> 参照)

ここに「ニセ旗攻撃」の例が出てくるが (p.4 上)、これはケネディ大統領のときの、キューバに対する「ノースウッズ作戦」(Operation Northwoods) がこのような案で、陸海空統合参謀長がケネディにこれを提案したが、彼は驚いて却下した。その全文が今、極秘扱いを解かれて写真版で見ることができる。真珠湾攻撃は、日本軍がやった以上「ニセ旗」ではないが、FDR がこれを知っていて故意に守備隊を退去させず、3000 の自国の将兵を死なせたのだから、これは“同じ人間”のやることではないだろう。米国史では、9・11 を始めとして、この同じパターンの騙し戦術が繰り返されていて、だからこそ Koenig は、ロシアでもこれが起こるだろうと、強く警告しているのである。これは我々がメディアに騙されて、「ロシアを撃て」の合唱が起こる可能性があるからである。そこまで我々は馬鹿ではないと思いたいが、万一そうになったら、我々は共犯者として立派な戦犯である。

Peter Koenig

October 21, 2016



ニセ旗攻撃 (false flag) は何百年もの歴史を持っている——つまり成功の歴史を。そうでなかったら、デマを宣伝して人々に虚偽信仰を強制する方法は、時代を生き延びて今日に継承されることはできなかったであろう。

しかしニセ旗攻撃は、9・11 以来、新しい次元を迎えた。それ以来のテロ活動——アラブの春や“カラー革命”、エジプト上空のロシア機撃墜や、ウクライナ上空のマレーシア機撃墜、パリの“シャルリ・エブド”や“バタ克蘭”での乱射事件、ブリュッセル、ニース、ミュンヘン、フロリダのオーランドー、カリフォルニアのサン・バーナーディーノ——などは過去

数年に起こったほんの数例だが、これらのテロは、テロと戦うと主張している者自身による犯行である。すなわち圧倒的に、アメリカ、イギリス、イスラエル、ヨーロッパの従僕国、それに NATO の秘密情報部によるものだ。このようなテロ活動の目的は、恐怖をつくり出して、人民に対する強権弾圧と、まだ西側に残っている民主的な市民権を、ますますはく奪していくのを正当化するためである。

究極の目標は、西側世界の全面的な軍国主義化であり、何年も続けて売春メディアに強制的に与えられてきた途方もないウソに、万一、人民が目覚めた場合には、抗議行動や反乱を防止し弾圧することである。

そしてそれは、それ自体が、ごく少数の企業と金融エリートによる、世界の（彼らの言葉で）**Full Spectrum Dominance**（全面的支配）つまり世界制覇という究極の目標に向かう、不可欠の一步なのである。

そしてなんと、西側の軍国主義化と、世界中で起こっている戦争と混乱は、何百万の人々——過去 15 年で推定 1,200 万から 1,500 万——の死を招いたが、それはロシアと中国の率いる東側強国を支配するには十分ではないのだ。

ワシントンで糸を引いているエリートたちは、核戦争を望んでいるのだろうか？ それは、我々が知っているような世界の、もしかすると何億という人命を伴う、完全な消滅を願う、彼らの病理的な欲求を満たすのかもしれない。アレポの姿を見て、これを百万倍すればよい。またキッシンジャーの 1974 年の「食糧統制ジェノサイド計画」を見るがよい。

https://www.schillerinstitute.org/food_for_peace/kiss_nssm_jb_1995.html

どんな手段を使ってでも世界の人口を減らすことが、主要な目標なのか？ キッシンジャーの 1974 年の、ジェノサイドとしての飢饉の“研究”は、モンサントや GMO テクノロジーとの黙契の下に行われた。これは食糧戦争であり、その準備は、世界が核の脅威に直面すると同時に進行している。

冷戦の 40 年を通じてますますアメリカは、軍事力への依存が強化されたが、これは経済的前進のための安全保障産業であった。外国の地を利用して、後で再建が必要となるようなものを破壊するための武器を製造するのは、巨富を得るための容易い方法で、それによって生じた外注労働による生産経済と、輸入したジャンク・フードを食べて生きる貧困化した地方人民を、それは支えることになる。

これはアメリカとヨーロッパの、ニセ情報を与えられた民衆についても当てはまる。西側は（戦争以外）自分自身が何もしないことによって、深い穴に沈んでいく。

しかし、ますます精度の高い兵器と、ますます必要になる破壊への需要は、貪欲、奪取、権力が天井知らずになるにつれて、指数関数的にスパイラル上昇していく。第3次大戦のシナリオが、焦眉の危険となりつつある。米対外政策を立案するネオコンたちは、核の地獄を、彼らの豊かな地下壕で生き延びるつもりだろうか？

西側の売春メディアは、アメリカは、中東や他の場所で、*كِبْرِيَّة*の指名する新しい“悪の枢軸国”——ロシア - イラン - シリアとそれにつながる中国——が犯す、テロリズムや他の残虐行為を粉砕するために、“人道的戦い”を戦っているのだと言っている。

基本的な前提は、彼らが“良い者側”で、プーチンの指揮下にあるロシアは、常に、アメリカの人道的行為を妨害しているというものである。この病的な理解は、6つのシオニスト - アングロ巨大メディアにコントロールされた西側メディアの作戦によって、絶えず宣伝され、絶えず繰り返されながら、大規模で信頼されるニセ旗作戦を、公道の大打進のようなものにし、それを何十億という“西洋人”が、東側の悪をやっつけろと叫びながら、拍手で見送っている。

現在アメリカは、ロシアの核攻撃に対し、ひそかに「警戒態勢」レベル3を布いている。アメリカの大衆はそれを知らない。レベル3とは、攻撃が数日後という意味であり、レベル1になると、1時間以下に攻撃が迫っているということである。これはそれ自体が「ニセ旗」で、ロシアから最初の攻撃があるかもしれないという見せかけであり、一方、ペンタゴンのタカ派どもは、最初の防御の一発が、今にも発射されようとしているかに宣言する。これは地球全体に、潜在的なニセ旗を、大規模に同時に吹っかけることであり、これによって、いくつかの前線で、ロシア、シリア、イラン、中国に対する、米軍、NATO軍、それにヨーロッパ従僕国による、先制核攻撃を行うことが可能になる。イスラエルは、イランに対する攻撃態勢を取っている。

．．．．中略．．．．

もし、この小さな停戦協定に背いて、米軍か米代理軍、またはNATOの戦闘員が、アレッポ地域のシリア地上部隊や、病院や市民集団を爆撃し続け、アルヌスラやISテロリストが、このまま継続して悲惨な種をまき、市民を殺し続けたら、どうなるだろうか？——ロシアはワシントンに対し、アサド軍に対するどんな攻撃でも、それが起これば、報復の対象となると言っている。そのようなシナリオが、熱い第3次大戦の引き金になるだろうか？ 停戦合意に逆らって、これをロシアのせいにする前例は、近い過去に存在している。9月17日、

米空軍が“誤って”アサドの地上軍を攻撃し、62人の兵士を殺した——市民も殺されたが数はわからない——そして主流メディアとの共謀によって、ロシアが責められた。

アメリカの軍用機がペンキを塗り替えてロシア機に見せかけ、それがシリアかイラクの米空軍自身を攻撃して、ロシアの犯行と宣伝され、それが米軍の先制攻撃の引き金になる、ということも、ありえないことではない。洗脳された西側の大衆に対しては、ニセ旗作戦は、ロシアの攻撃として簡単に売り込まれ、ワシントンの先制攻撃を正当化するであろう。

アメリカの揺るがぬ同盟国であるイギリスが、最近、そのジェット戦闘機のパイロットに、シリアのロシア航空機を砲撃する“許可”を与えた。もし彼らが、これをアメリカ代理軍としてやったらどうだろう？ そしてロシアがある NATO 国に報復したらどうだろう？ これは NATO のルールでは、NATO 全体に対する攻撃である。それは全面戦争になり得る。ヨーロッパの米と NATO の基地は残らないであろう。現在、24の基地があり、それは西側が NATO を拡大しないと約束した 1991 年の 14 から増えている。これはロシアを 100 年間に 3 度目、戦争シナリオに追い込むことになり、今度こそは全滅戦争になる。どうしてヨーロッパにこれが見えず、理解できないのだろうか？

イエメン情勢——。2015 年 3 月以来、サウジに率いられ、最近までワシントンが兵器、兵站（輸送）、情報の支援をしていた連合軍が、フーシ（Houthi）反政府軍を爆撃している。フーシ軍は西側の支配からの自由を求めて戦いながら、サナの大統領宮殿を占領し、独裁者の米傀儡 Hadi 大統領を、サウジアラビアへ追放しようとしている。フーシ軍は、イエメンの人口の大多数の後ろ盾を得ており、合法的な政府とみなされている。彼らはまた、イランから兵站の支援を受けている。彼らは、イエメンの領土のほぼ 4 分の 1 を支配しているだけだが、人民は 3 分の 2 を支配している。サウジはこれまで卑怯にも、ほとんど市民を標的にし、結婚式とか葬式のような家族の行事、人道的食糧や医薬品、病院を襲い、主として女性や子供からなる何万という市民を虐殺している。2 週間前、米英の両空軍が、この残忍な戦争でサウジ軍に加わった。

フーシ軍は、プーチン大統領に助けを求めているが、アメリカは現在、国連を通じて、72 時間の停戦が 10 月 19 日真夜中に発効するように求めている。公的な目的は“人道的援助”だが、本当の理由は、侵略者たちが陣を立て直し、戦略を練るためである。“混沌の主人”（Master of Chaos, アメリカのこと）が、オマーン湾とイランの支配するホルムズ海峡を見下ろす、これほどの戦略的に絶好の国を、手放すことは考えられない。ここを通過して、現在、世界の炭化水素のほぼ 25% が動いている。西側のたくらむニセ旗戦術が、ロシアの介入と見せかけて、全面戦争を起こす可能性は十分にあり得る。

イスラエルはサウジと友好関係を結んで、サウド王家に、サウジの空港を利用する許可を求めている。これを彼らは、イランに対する先制攻撃に利用するかもしれない。

プーチン大統領に対する、インターネット・スパイやサイバー攻撃といった非難は、滑稽きわまりないが、プロパガンダという武器によって、アメリカとヨーロッパのほとんどの民衆は、これを真実として呑み込むだろう——そして米、英、イスラエルの秘密情報局に、仕返しをするように奨励するだろう。主張されているのは、プーチン氏が米選挙を動かして、ドナルド・トランプに有利なように細工し、民主党全国委員会のコンピューターをハッキングして、民主党の腐敗スキャンダル——クリントン夫人の腐敗とウソなど——を暴いているというものである。どうやら CIA がすでにプーチン大統領に、サイバー戦争の宣戦布告をしたようだ。

ロシアは、重要な戦略構想を、DRFM（デジタル・ラジオ周波メモリー）技術によって混乱させて、潜在的に報復することができる。これはすでに、2015年に、シリアのラタキア近くで応用して成功したもので、すべての米 - NATO「レーダー・衛生通信システム」を破壊した。——このような可能性のある、サイバー戦の報復やエスカレーションが、ロシアによる冷酷な侵略に翻訳されて、全面戦争を正当化し、核戦争に発展するだろうか？

10月19日に、プーチン、オランダ、ポロシェンコの3大統領が、メルケル首相の招きでベルリンを訪れ、シリア問題と、東ウクライナの平和交渉の実現について論じた。そもそも、いったいどうして、シリアのような主権国家の問題が、アサド政府のどんな代表も抜きにして、外国の首脳によって論じられるのか？ これは人間的かつ外交的な異常事態である。しかし我々は、西側から他にどんなことを期待できるだろうか？ とはいえ、今日、正常に見えることが、全く正常ではないことを忘れるべきではない。

この会合から生じた小さなことだが、オランダ氏は、プーチン氏が“ウクライナでの彼の責任”に向き合わないと言って、欲求不満のまま帰国した。何という見え透いたウソをつくものか！ そしてオランダはそれを知っている！ また、シリアでの平和実現をどうするかについて、どんな真の合意も得られなかったことが、明らかにされた。明らかに、ベルリンで会合したワシントンの西側従僕にとって、“解決”の方法は一つしかなかった——“政権交代”である。彼らはそれを手放そうとしない——オランダにもメルケルにも、なぜアメリカがすでに2007年に、テロ軍団を募集し、訓練し、武装させ、資金を与えていたのが、はっきりわかっているにもかかわらず。シリアについては、この論文を参照されたい——

<http://www.globalresearch.ca/its-not-just-the-oil-the-middle-east-war-and-the-conquest-of-natural-gas-reserves/5307589>

ウクライナについて——ポロシェンコは平和への新しいロードマップを示したが、言うほどのものではない。シリアについては現実的な暗礁、ウクライナについては“進展なし”ということは、予想されていた。もちろん、オランダもメルケルも、その責任はプーチンにあるとしている。プーチンはこのどちらの紛争にも役割を果たしていない。両方ともワシントンの悪の拳によるものである。

プーチン氏は、この国を防衛し、西側の植え付けたテロリストを排除してほしいという、アサド氏の要請を受けて、シリアに入ったにすぎない。彼はまた、ウクライナに平和をもたらそうと、あらゆる努力をしたのだが、成功しなかった。西側は平和を望んでおらず、この紛争をロシアの責任にしたがっている。メルケル会談の失敗は、キエフかアレッポへの「ニセ旗攻撃」につながり、プーチンが責められることになる可能性が大きい。アメリカ空軍には、ロシア・ジェット機に変装したジェット機があることを忘れてはならない。

中国

中国の支配する **Spratly Islands**（南沙諸島）に対するアメリカの挑発や、過去にいくらかもあった、中国の領空や領土への侵入は、中国を核攻撃に引き込む引き金になるだろうか？ 帝国によって混沌へと突き落とされた熱い場所は、世界中にいくらかでもある。そのうちのどれ一つを取っても、核爆弾の潜在的な発射台になり得る。これがもし米選挙前に起こるようなことがあったら、オバマはもう一期だけ、在職した方がいいかもしれない。彼はどんな前任者よりも、より多くの混沌をつくり、より多く分割して統治するのに必要な、すべての経験を持っている。彼はまた、背後から糸を引き、1ドル札に描かれているピラミッドの天辺の眼（シオニスト - フリーメイソンの全面制覇の象徴）から見ている者たちに、柔順な召使である。しかし重要なことは、彼もヒラリーと同じように、主人たちに要求されれば、赤いボタンを押すのに躊躇しないだろうということである。